

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 結果について

### ■ 令和5年度全国学力・学習状況調査の概要

#### 1. 調査の目的

- ・義務教育の機会均等等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査対象及び調査方式

小学校第6学年、中学校第3学年

#### 3. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

#### 4. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（小6国語・算数、中3国語・数学・英語）
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

## ■ 教科に関する調査 小学6年生 国語科

### 全体の概要

- ・ 全体的には県平均、全国平均とほぼ同じでした
- ・ 観点別に見ると、知識・技能については、県平均、全国平均とほぼ同じでした。思考・判断・表現も、県平均、全国平均とほぼ同じでした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識及び技能	・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題、日常よく使われる敬語の理解を問う問題に課題が見られます。	・ 正しく書く、正しく使うためには、漢字の意味を理解することや、漢字を使う経験を積み重ねていく必要があります。敬語については、学習を理解し、日々の生活の中で適切に使うことを意識させる必要があります。
思考・判断・表現	・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題、目的に応じて文書や図表などを結び付ける問題に課題が見られます。	・ 図表や資料に書かれていることを読み取る力が必要です。また、読み取ったことを整理・分類したり簡潔に文章化したりして、要約する活動を積むことが必要です。国語科だけでなく他教科においても、図表やグラフなどから分かることを文章に表現する活動を取り入れていく必要があります。

## ■ 小学6年生 算数科

### 全体の概要

- ・ 全体的には県平均とほぼ同じ、全国平均よりやや下回っていました。
- ・ 観点別に見ると、知識・技能は県平均とほぼ同じで、全国平均をやや下回っていました。思考・判断・表現は、県平均とほぼ同じで、全国平均をやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・ 正三角形の意味や性質についての理解、分配法則を用いた計算、百分率で表された割合についての理解をみる問題などに課題がありました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について考察し、示された図形の角の大きさを求めることができるようにすることが大切です。</li> <li>・ 計算を簡単に素早く行うための工夫を身に付けることが必要です。繰り返し類似問題に取り組むなどして、習熟を図る必要があります。</li> <li>・ 百分率で表された割合である30%について100や10を基準量としたとき、それらに対する比較量を捉えることが必要です。</li> </ul>

<b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数字を用いて記述する問題に課題がありました。</li> <li>・計算に関して成り立つ性質に気付いたり計算の仕方について捉え直したりする問題に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形における底辺と高さの関係を理解して2つの三角形の面積が等しくなることを記述して証明する必要性がありました。図形の意味や性質、構成する要素、構成の仕方など、学んだことを想起しながら、求められる条件に合わせて説明する、記述する経験を積み重ねる必要があります。</li> <li>・既習内容を活かし、日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにすることが必要です。</li> </ul>
-----------------	---	---

## ■ 教科に関する調査 中学3年生 国語科

### 全体の概要

- ・全体的には県平均、全国平均とほぼ同じでした。
- ・観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに、県平均、全国平均とほぼ同じでした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
<b>知識・技能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体と抽象など情報と情報との関係についての理解を問う問題や文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることができるかをみる問題に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味をとらえた上で、具体と抽象が状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要です。その際に身の回りの事例と結び付けながらとらえることができるように指導することが大切です。</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の授業の中で「根拠を明確にして書く」とはどのようなことか、理解できるように指導する必要があります。</li> <li>・古典を楽しめるように現代語訳などを教材として適切に取り上げ、古典の楽しみ方を見出すことができるようにすることや古典の原文と現代語訳を比較したり関係づけたりして作品に興味関心が向かうように指導することも必要です。</li> </ul>

## ■ 中学3年生 数学科

### 全体の概要

- ・ 全体的には県平均、全国平均とほぼ同じでした。
- ・ 観点別に見ると、知識・技能は県平均をやや上回り、全国平均とはほぼ同じでした。思考・判断・表現は県平均とほぼ同じでしたが、全国平均はやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかみる問題、反比例の意味を理解しているかを見る問題、累積度数の意味を理解しているかを見る問題に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りにある事象を図形としてとらえ考察することを通して、空間における平面について理解を深められるようにする必要があります。電子黒板や一人一台端末を効果的に活用できます。反比例の特徴や表や式、比例定数などを関連付けてとらえさせ、意味を理解できるように指導することが必要です。具体的な場面を想定して考えさせ累積度数の必要性と意味を理解できるように指導することが必要です。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題や事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 証明するための構想を立て、それに基づいて過程から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるよう指導する必要があります。</li> <li>・ 日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察するなど、関数を活用するよさを実感できるようにすることも必要です。</li> </ul>

## ■ 中学3年生 英語科

### 全体の概要

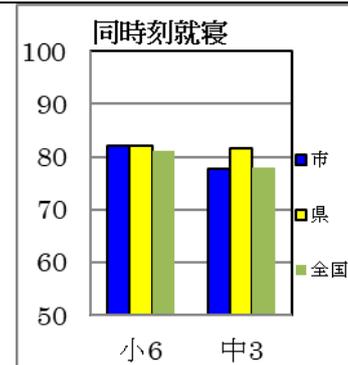
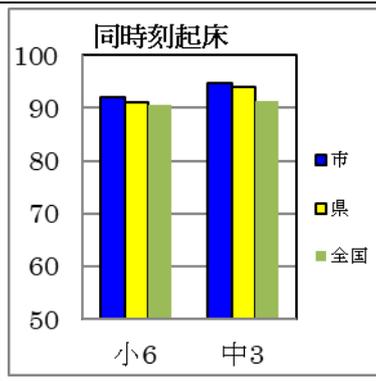
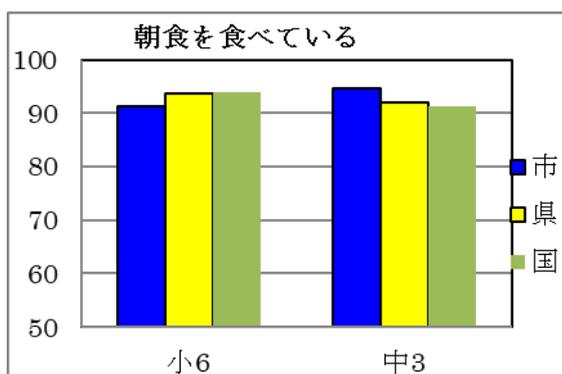
- ・全体的には県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。
- ・観点別に見ると、知識・技能では、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。思考・判断・表現は、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を正確に聞き取ることができるかをみる問題、文と文との関係を正確に読み取ることができるかをみる問題等に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用デジタル教科書等を活用しながら「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにすることが大切です。</li> <li>・語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することが大切です。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかをみる問題、日常的な話題や社会的な話題について短い文章の要点や概要をとらえることができるかをみる問題に課題がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要や要点をとらえるには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容をとらえることが必要です。</li> <li>・意見文を読んで、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして書き手が最も伝えたいことは何かを判断してとらえることが必要です。</li> </ul>

## ■ 生活習慣等に関する質問紙調査 小城市の概要・考察

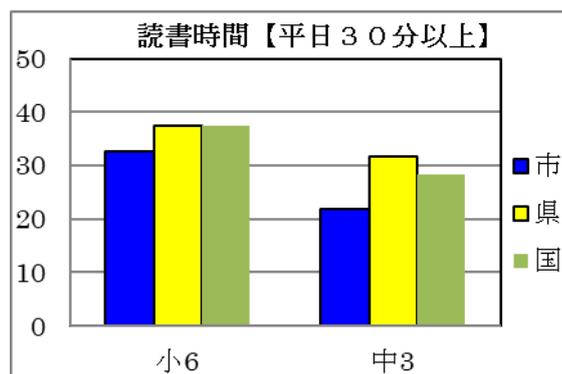
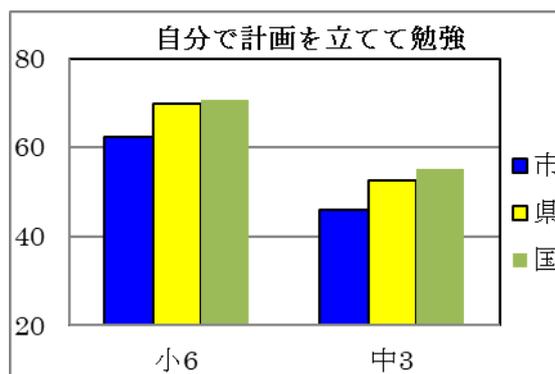
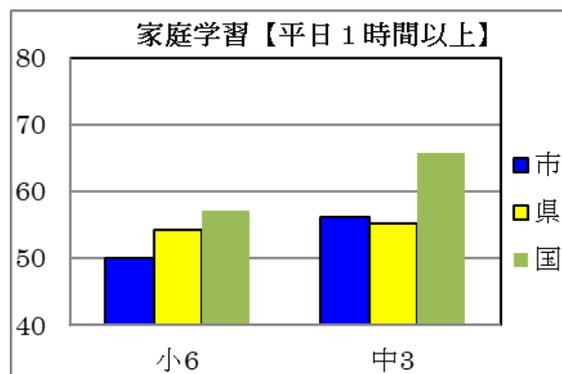
### 【 基本的な生活習慣について 】

調 査 の 項 目	
①	朝食 ※している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
②	同時刻起床 ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
③	同時刻就寝 ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



・「朝食」「同時刻起床」の項目からは、基本的な生活習慣の定着が進んでいることがうかがえました。一方、「同時刻就寝」の項目からは課題も伝わってきます。生活の基盤は健康です。今後も、『早寝・早起き・朝ごはん』を合言葉に、自律的に健康的な生活習慣を維持してほしいと願っています。

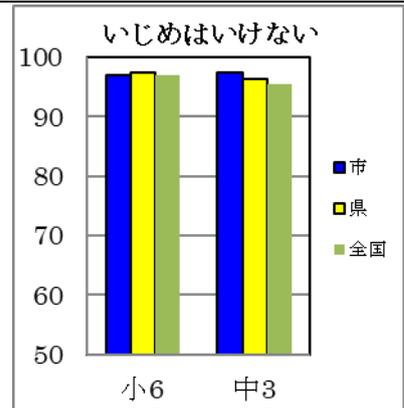
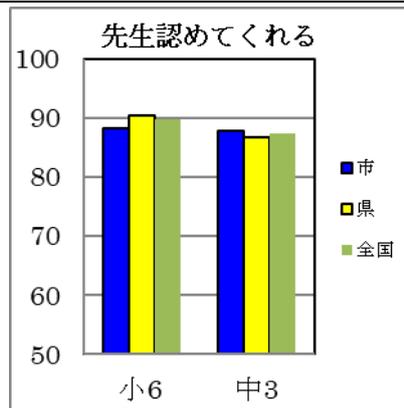
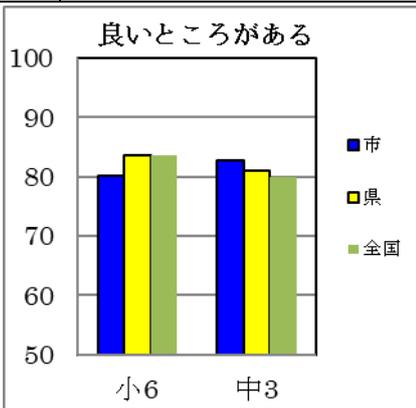
調 査 の 項 目	
④	家庭学習 ※平日 1 時間以上家庭学習していると答えた児童生徒の割合
⑤	自分で計画を立てて勉強 ※よくしている・していると答えた児童生徒の割合
⑥	読書時間 ※平日の平均の読書時間を30分以上と答えた児童生徒の割合



・学習への主体性に課題が見られます。宿題や課題への取り組みだけに留まらず、興味関心のある内容や苦手な教科の克服のために家庭学習に取り組むことも必要です。また、読書に親しみ、想像力や表現力、読解力を高めてほしいと思います。時間を効果的に使い、楽しく学び、家庭学習においても意欲的に取り組んでほしいと思います。

【 その他の項目について 】

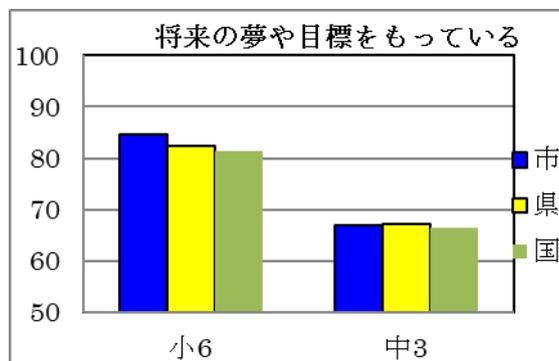
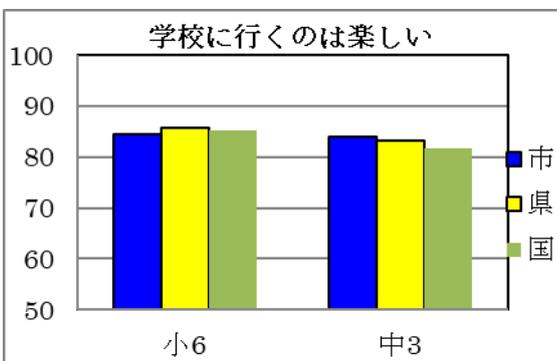
調 査 の 項 目		
①	良いところがある	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
②	先生認めてくれる	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
③	いじめはいけいない	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



・令和5年度、佐賀県の教育は「ほめるから、はじめる。はじまる。」をテーマに取り組んでいきます。自分で考え、判断し、行動する、チャレンジする骨太で たくましいこどもを育てるために、学校だけでなく、保護者や地域とも連携して、子どもの主体性を尊重していく方針です。

「良いところがある」の項目からは、小中ともに約8割の児童生徒が、自分を肯定的に捉えていることがうかがえます。「先生認めてくれる」の項目については、9割近い児童生徒が肯定的に回答するなど、それぞれの学校で教師から、そして友だちから認められる場面が設けられていることが想像できます。さらに、「いじめはいけいない」という項目では、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する意識が高いことがうかがえます。今後も、児童生徒の頑張りを称賛し認めながら、自己肯定感や自己有用感を高めていきたいと思ひます。そして、学習や生活への意欲の向上へつなげ、児童生徒の主体性な取り組みが高まるよう支援していきたいと思ひます。

【 おわりに 】



・8割以上の児童生徒が学校に行くのが楽しいと回答しています。“学校で学ぶことが楽しい”“友達過ごすことが楽しい”と感じる児童生徒を一層増やしていきたいと思ひます。また、夢や目標をもつことは、成長につながる原動力です。夢や目標の実現のために自分にできることを考え、行動できるように支援していきたいと思ひます。